



Nagai Rotary Club



長井ロータリークラブ



Weekly report

長井ロータリークラブ会長 尾形 和夫
 長井ロータリークラブ幹事 遠藤 伴明
 パストガバナー 渡部 保太郎
 例会日 毎週火曜日 12:15~13:15
 事務局 長井商工会議所内 Tel0238-83-2047

第2800地区ガバナー 新関 彌一郎
 第6ブロックガバナー補佐 横澤 寿彦
 例会場 タスパークホテル Tel0238-88-1833
 会報委員 長澤修司・齋藤圭央・小野浩二

URL: <http://www.nagai-rc.jp>E-mail: info@nagai-rc.jp

四つのテスト 1 真実かどうか 2 みんなに公平か

3 好意と友情を深めるか 4 みんなのためになるかどうか

平成26年3月4日(火曜日) 第2, 558回

ゲスト卓話

【月間テーマ】 識字率向上月間 <例会報告 NO.31>

福島県人との交流会 その2

☆会長挨拶(尾形 和夫)



皆さん、こんにちは

東日本大震災から間もなく3年が経とうとしておりますが、先日の新聞にこんな記事が掲載されていたので、紹介します。

東日本大震災と東京電力福島第1原発事故による住民避難が続く福島県で、避難生活による体調悪化などが原因で亡くなる「震災関連死」の死者が2月19日現在で1,656人となり、津波など震災を直接の原因とする死者1,607人を上回ったことが、県などのまとめで分かりました。つづいて宮城県879人、岩手県は434人となっており、福島県の多さが目立ちます。

震災関連死とされた人の約9割が66歳以上で、福島県の担当者は、それまでの生活が一変した上、帰還など将来の見通しが立たずにストレスが増しているのが要因としております。今後、市町村と連携しながら、仮設住宅やアパートなどの「みなし仮設」を保健師らが巡回して避難者を見守る活動をいっそう強化するということです。

ただ、私事ですぐ3年が過ぎようとしている中で、

仮設住宅を増やしていくとか、何々体制を強化していくなんていうことを言っているような時期はもう通りすぎていると思っています。片方ではオリンピック招致が決定し沸きあがっている状況です。今後考えられることは、建設業に従事されている方々は、オリンピック関連施設の建設を優先し、被災地の復興がさらに遅れるのではないかと、懸念しているところです。

もう少し本気で被災者、及び被災地のことを真剣に考えてもらいたいものです。

今日は、社会奉仕委員会担当によります第二回の福島県人の皆様との交流会となっておりますが、長井市総務課行革室主任の鈴木祥一様においでいただいたのフォーラム例会を予定しておりますので宜しくお願いします。

以上で、会長挨拶といたします。

☆幹事報告



- ・3月のロータリーレートは1ドル=102円となっております。
- ・11月9、10日に開催されました国際ロータリー2800地区大会のDVDができましたのでお渡しいたします。
- ・先週のファイヤーサイドミーティングにて渡部保太郎 PG の卓話の内容について、まとめていただきましたのでご覧になっ

てください。

・3月のガバナー月信の新入会員紹介欄に、大道寺会員・塚田会員の非常によく映っている写真が掲載されております。

☆社会奉仕委員会 渡辺 清隆 委員長より

第2回目の交流会ができたことを大変うれしく思っております。

今日は大変お忙しい中市役所より鈴木様がおいでくださり、まことにありがとうございます。お話のあとに質疑応答の時間もとっておりますので、聞きたいことが聞ける良い機会だと思います。これまでの経緯を被災者の会とのふれあいをいろいろ作っていただきました横澤寿彦ガバナー補佐よりご説明いたします。

☆横澤寿彦ガバナー補佐より

ロータリークラブは世界にむけて奉仕活動を行っていますが、その流れの一環として山形県の地区でも東日本大震災については、外向きの支援を行ってきましたが、今年度につきましては、山形に避難している方への支援を重大目標として行っております。4つほどの支援項目を行っております。

- 1 長井中央ロータリークラブとの共同で NPO 法人復興ファームへの支援
- 2 11月に行われた、いっこく堂のライブの招待
- 3 観桜会 30名（大人20名子供10名）の招待
- 4 福島県人との交流会（全2回）

市の対応等の話を本日は行っていきます。

その話が終わり次第、質疑応答を行っていきます。

少しでも前向きになれるようにご支援して行きたいと思います。

☆長井市役所 総務課 鈴木様

チラシと、資料をお渡しいたしました。

本日は長井で行っている支援・対応についての話ということですが、長井市が単独で行っているというよりも、県も含めた社会福祉協議会等の県内のいろいろな団体と連携してやっているという流れになっています。

避難元の地域によって対応が違ってきます。そこに、寄り添うとなるとなかなか合わせることが難しいのが現状。

そのなかで、社会福祉協議会や今回のロータリーなどで広く支援をしていただくことはよいかと思えます。

県としては多くの避難者を受け入れるということは想定外のことだった。当時は、とまどっていました。現場の市町村がそれぞれ対応していた。

現在の避難者数

長井市：144人 56世帯（県全体：6,035人）

経過：ピーク時は300人を超える人が避難されていた。特に借上住宅の対象が自主避難者へも拡大されてからは、福島市など避難指示区域外からの避難者が増加した。しかし、お子さんの就学への心配もあり、自主に避難していた方は小学校に入るなどのタイミングで戻られるケースが多くなっています。

市の支援

- ・市の広報、イベントチラシ、各種お知らせの定期的な送付
- ・児童センター利用料の減免

- ・私立幼稚園入園者への支援
- ・小中学校へ就学した児童への支援（学用品、修学旅行等）
- ・学童クラブ利用の負担金免除

県の支援

- ・民間借り上げ住宅の提供（現時点ではH27.3.31まで）
- ・一戸建て借り上げ住宅の雪下ろし助成
- ・平成25年8月に「やまがた避難者支援協働ネットワーク」を設立。NPOなどの民間団体、社会福祉協議会、行政などの避難者支援にかかわる機関が意見交換、情報共有する場として設立された。

社会福祉協議会の支援

- ・支援員を配置し、希望世帯への定期的な訪問を行う（30世帯ほど）
- ・除雪機の貸出（自分で運搬するなどの条件がある）
- ・交流会の実施（先月22日にはぎの湯への招待など）

質疑応答

避難者の呼び込みをしてみたいのはいいのでは？

避難者たちの間でも、長井市の人口が減ってきているということが話題になってきている。避難者に対してということでお話ししていただいたが、3年たつて福島に関しては現実的に帰れないひとと、帰れる人と出てきている。その帰れない人を長井市に呼び込むということはできないだろうか。いま仮設住宅に住んでいる人の中には農業に高い技術・能力を持っている人がいる。長井にいと、土地が余っていて畑を貸してあげるよという話をよく聞く。

食料の放射能検査について

長井市の食品の放射能検査を調べても出てこない。県では発表させているのだが、長井市ということでは見えない。

子供のケアを充実してほしい

交流会の数を増やしてほしい。何回かは交流会が開かれていたが、なかなか自分の子供も18歳までに浪江町に帰れません。その浪江町の地元の勉強もあってもいいのかなと思う。

鈴木氏より

避難者に対しての呼びかけはしていなかった。原則では戻れることを想定して動いていた。現実的に帰れない人がいらっしゃることについての対応は個別にやっていいのかということが難しいところがある。

放射線については、すみません。細かいことが自分で把握していない部分がありましたので確認してお答えします。

<早退届け>

- ・齋藤 慎治 会員

<ニコニコ BOX>

- ・瀬尾 雅広 会員

ファイヤーサイドミーティング欠席のため

- ・尾形 和夫 会長

ゲストを歓迎して